

研究課題名	食道癌切除再建術後の食物通過障害についての後方視的検討
研究の意義・目的	<p>全身麻酔における重要な合併症の一つとして、麻酔導入時の嘔吐および誤嚥（吐物が気道に流れ込むこと）があります。多量に嘔吐・誤嚥した場合は致死的な誤嚥性肺炎に至ることもあるため、全身麻酔前に嘔吐のリスクを正しく評価することは極めて重要です。</p> <p>一方で、近年の医学の進歩により、過去に食道癌切除再建術を受けられた患者様が別の理由で全身麻酔での手術を受けられるような場合も増えています。食道癌切除再建術の術後合併症として、食物通過障害がよく知られています。再建した消化管の吻合部が狭いことや蠕動運動が悪くなることなどが原因と考えられており、食物通過障害が著しい場合は全身麻酔導入時に嘔吐・誤嚥を来す危険性が非常に高くなります。そのため、どのような患者様で食物通過障害を来しやすいかを過去のデータから予測することが重要となります。食道癌の再建方法には様々なものがあり、再建経路では、「胸壁前経路」、「胸骨後経路」、「後縦隔経路」の3つがありますが、これらの再建経路と食物通過障害の関連性についてはほとんど知られていません。そこで本研究では、食道癌切除後の再建経路と食物通過障害の関連性について明らかにすることを主な目的とします。この研究により食物通過障害のリスクを層別化できれば、より安全な麻酔計画および周術期管理につながります。</p>
研究を行う期間	機関の長の実施許可日 ~ 2028 年 3 月
研究協力を お願いしたい方 (対象者)	2014 年 1 月~2023 年 12 月に大阪公立大学（大阪市立大学）医学部附属病院で、食道癌に対して食道癌切除再建術を受けられた方のうち、手術日の時点で満 20 歳以上だった方が対象となります。
協力をお願いしたい 内容と研究に使わせ ていただく試料・情 報等の項目	<p>診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。</p> <p>患者基本情報：年齢、性別、診断名、既往歴、併存疾患、入院日</p> <p>身体所見：身長、体重</p> <p>血液検査：肝機能（AST、ALT、T-Bil、Alb）、腎機能（BUN、Cr、eGFR）、血糖、HbA1c</p> <p>画像検査：胸部 X 線、胸腹部 CT、食道造影検査、上部消化管内視鏡検査</p> <p>手術情報：術式、ASA-PS、再建経路、再建臓器</p> <p>自覚症状：食物摂取障害の有無、食後の嘔吐、体重減少</p> <p>術後機能障害：誤嚥性肺炎、嚥下障害、反回神経麻痺</p>
試料・情報を 利用する者の範囲 および管理について 責任を有する者の 研究機関の名称	<p>この研究は、公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院医学研究科麻酔科学のみで行います。</p> <p>【研究責任者】舟井優介</p>
個人情報の取り扱い	<p>この研究にご参加いただいた場合、あなたから提供された診療情報などのこの研究に関するデータは、すぐには個人を特定できない形式に記号化した番号により管理されます。</p> <p>この研究から得られた結果が、学会や医学雑誌などで公表されることはあります。このような場合にも、あなたのお名前など個人情報に関することは含まない形で公表</p>

	されます。
<b>本研究の 利益相反</b>	本研究の利害関係については、各研究機関で定められた利益相反マネジメントの規定等に従って必要に応じて各研究機関の利益相反マネジメント委員会へ報告を行うことにより、利益相反を管理し研究を遂行します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
<b>研究に協力を したくない場合</b>	診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益を受けることはありません。
<b>連絡先</b>	大阪公立大学医学部附属病院 麻酔科 担当者氏名：舟井 優介 電話番号：(06) 6645-2186 メールアドレス：funai@omu.ac.jp